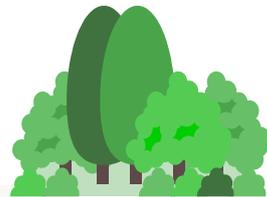


# かわらばん 第3号



## ～第3回豊間地区防災緑地ワークショップが開催されました～

平成 25 年 6 月 9 日(日)に「豊間地区防災緑地ワークショップ」が豊間公民館にて開催され、豊間地区の住民 15 名の方が出席されました。

今回のテーマは「防災緑地のイメージを考えよう」(植生などについて)でした。4つのグループに分かれ、緑地に必要な樹種や植栽方法、配置などについて意見交換しました。また、和歌山県有田郡広川町の広村堤防を視察された蓑茂壽太郎先生(公園財団理事長、元東京農業大学副学長)からお話を伺いました。

ワークショップは、豊間支援・東京専門家グループに支援していただきました。

### ワークショップ全4回の流れ

- 第1回ワークショップ (4月20日(土))  
防災緑地を知ろう
- 第2回ワークショップ (5月18日(土))  
防災緑地のイメージを考えよう(使い方などについて)
- 第3回ワークショップ (6月9日(日))**  
防災緑地のイメージを考えよう(植生などについて)
- 第4回ワークショップ (6月30日(日))  
まとめ/計画内容と今後の取り組みについて

### 第3回 豊間地区防災緑地ワークショップ プログラム

1. はじめに
  - ・開会挨拶
2. 前回のふりかえりと今回のポイント
3. グループディスカッション①
  - ・参加者の自己紹介
  - ・話し合い
    - > 前回の意見を反映した計画について
    - > 緑地に必要な樹種や植栽方法(誰がどのように)、配置 など
  - ・中間発表
4. 「広村堤防視察記」(蓑茂壽太郎先生講話)
5. グループディスカッション②
  - ・話し合い
    - > 中間発表を受けて、具体的に
  - ・発表
6. おわりに
  - ・まとめ
  - ・次回までの宿題(整備後の利活用と管理方法)
  - ・次回の予定
  - ・閉会の挨拶

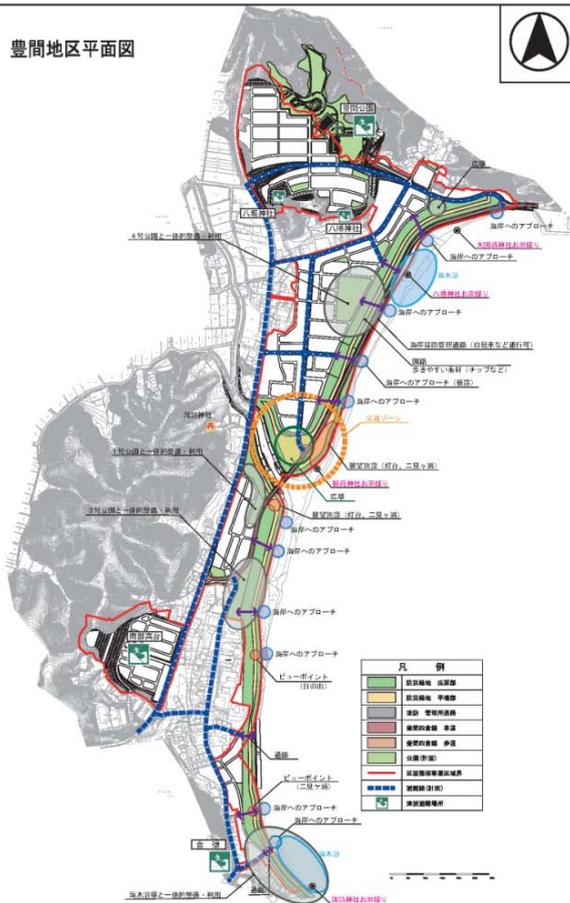
## 前回までのふりかえりと今回のポイント

前回までのワークショップでは、防災緑地のイメージや使い方などについて話し合ってきました。祭りや伝統行事(お潮採り)などの継承のために海岸へのアプローチが必要といった指摘や、街を訪れる人に楽しんでもらえるよう展望施設や散策路などを設けてはどうかといったアイデアが多く挙がりました。

今回は、これらの意見やアイデアが示された平面図を見ながら、防災緑地の植生(樹種や植栽方法など)について考えました。

防災緑地が、防災性だけでなく、豊間の暮らしに豊かさを与える緑地となるには、どんな緑や花、実があるとよいか、アイデアを出し合いました。また、防災緑地が将来にわたって長く受け継がれるために、どんな管理のしかたや住民としての関わり方ができるのかについても、話し合いました。

豊間地区平面図



前回までの意見・アイデアを示した平面図 ▶



A  
班

## ◎ 歴史と自然を踏まえて

- ・ 遠方から運ばれてきた珍しい植物が群生している。ハマナスも、元は流れ着いたものではないか？
- ・ 潮目や河口の汽水域などの特徴がある。

## ◎ 植物を「育てる」「活用する」

- ・ 成長が早いケヤキ、自生している種、マツやヤマザクラなど。
- ・ 種やドングリから育てる。
- ・ ハマナス、シバザクラなどを一面に植えて、観光資源にする。
- ・ 公共の森を創る。

## ◎ 津波と地域を考えた植栽

- ・ 海側は、本来の「防災」の役割を考えて植栽する。常緑樹のシイや、自生している種を活用。
- ・ 住宅地側は、果樹など。ただし、果樹は管理が大変なので、覚悟が必要。ゾーンを決めて管理するやり方もよいかもしれない。

## ◎ 支援を受け止める仕組み

- ・ 外部企業との協力体制を築く。



B  
班

## ◎ 豊間の DNA を残すために

- ・ 高台のシイ、タブの幼木を移植してはどうか。神社のシイやタブは保護樹林になっている。
- ・ シラカシは北限。
  - ・ ナラ、クヌギのドングリを秋に拾い、育てて植える。

## ◎ 防災緑地の樹種、植栽

- ・ 砂浜が狭くなっているので、防災緑地の海側は砂を守る植栽が良い。ハマヒルガオ、ハマナスなど。
- ・ 防災に主眼を置くと、マツが良い。
- ・ 防災緑地自体に高さがあるので、高木は避けたい。自生している低木による植栽が良い。
- ・ 住宅地側には、サクラ、モモ、ツバキ、ウメ、マルバシャリンバイ、サザンカ、ツゲなど、四季を楽しむ樹木を植えたい。
- ・ コリの根（焼酎）、サクラ（桜茶）、ツバキ（椿油）、ハマナス（漢方薬）、果樹、草木染めができる樹種、高価で売れるサカキやオオサカキ、など、産業再生の糧になる樹種が良い。

## ◎ 緑の管理について

- ・ エリアを分けて管理するのが良いのでは。



### ◎ 緑地の環境整備～快適なウォーキングロードを～

- ・ 豊間の住民は散歩好き。
- ・ 防災緑地が快適なウォーキングロードになるように、樹木を密に茂らせず、見通しが利くほうが良い。海の状態が確認できると、安全・安心につながり、夜の防犯にも効果がある。
- ・ 街路灯やベンチなどが途中にあるとなおよい。

### ◎ どんな樹種が良いか

- ・ 豊間で栽培実績のある植物。ゆず、いちじく（日本いちじく）、ブドウ、サクランボ、メロンなど。かつては、柿や栗、ヤマブドウ、ノブドウもよく目にした。
- ・ ハマナスやハマエンドウなど、豊間に自生していたものも植えたい。
- ・ 区域に分けて、それぞれ異なった実のなる樹種を植え、収穫した果実からジャムを作ってはどうか。
- ・ 潮に弱い植物は、山側の緑地に植える。

### ◎ 管理はどのように？

- ・ 町会毎など、地域で管理する。ただし、全域は負担が大きいのので、要所を指定する。
- ・ 地区毎に担当する植栽の種類を分けると、管理しやすいのではないか。



### ◎ 豊間に合う木を植える

- ・ 潮風に強く、花や実のなる樹種が良い。ラズベリー、シャリンバイ、いちじく、栗、ザクロ、トリモチなど。
- ・ 松は、虫の被害が心配だ。

### ◎ 四季の花を楽しめる防災緑地に

- ・ 春は桜、夏はハマナス、サルスベリ、秋はハマギク、冬はツワブキ。人の集まる広場のあたりに植栽する。

### ◎ 植栽を収益や雇用に結び付けたい

- ・ 実を収穫し、加工して地域の産品として近所で販売できれば、雇用が生まれ地域活性化につながる。たとえば、ラズベリーはジャムにできる。
- ・ 染物に使える花や木も良い。桜なども使える。
- ・ 植栽を、観光客のおもてなしに活かしたい。

### ◎ 維持管理について

- ・ 維持管理のために、実などから収益を得られると良い。
- ・ 木のオーナーを募集したり、「義援の木」として費用や労力の面で支援してもらうのはどうか。

### ◎ 防災緑地と区画整理区域との結びつき

- ・ 桜基金を区画整理区域内で活用してはどうか。
- ・ プランターを住宅地の道路沿いに並べ、たくさん花を咲かせる取り組みを実施している地区もあると聞いた。豊間の住宅地でも試みてはどうか。



## 「広村堤防視察記」(蓑茂壽太郎先生講話)



### 広村堤防とは

- 湯浅湾に面する旧広村地域は、室町時代と安政南海地震の津波で大きな被害を受けた。幕末に築かれた堤防によって、昭和21年の南海地震では、津波から集落が守られた。
- 民家側緑地には柿やみかんなど身近な樹木が植えられ、総出で草刈りをするなど、地域の方の生活の延長上にある。

### 豊間地区の防災緑地づくりを考えると

- 防災緑地は、命を守る緑地。しかし、100年、200年維持していくのは大変なこと。
- 緑地が日々の生活や生産の中でも意味を持ち、それが管理につながる仕組みを作ることが重要。つまり、メンテナンスだけでなく「経営をする」という考え方。
- 人の心と科学的な知識とが調和し、様々な方が参加できる形で防災緑地づくりが進むことを期待したい。



## これまでの意見交換のまとめ

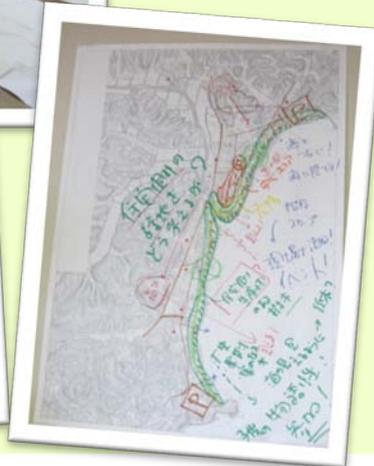


### どんな施設が必要か

- 行事(お潮採り)のためだけでなく、普段の清掃などのためにもスロープが必要。階段については、数がたくさんあるよりも、重点的に良いものがあるとよい。
- 防災緑地と広場や公園とが一体的に機能するように考える。ビューポイントへの配慮、駐車場も必要。

### どんな樹種がよいか

- 特にハマナスやハマボウフウ、ハマエンドウなど低木を活かしたい。
- 住宅側と海側は分けて考える(傾斜が異なり、技術的な課題も)。住宅地側は、土地利用も踏まえて樹種を選ぶ必要がある。
- 様々な人が継続的に緑地管理に参加できる仕掛けを考える。



## 次回のお知らせ!

第4回ワークショップ 6月30日(日) 13時半~16時 場所:豊間公民館

### テーマ:まとめ/計画内容と今後の取り組みについて

これまでの議論をまとめ、整備後の防災緑地と地域の関わり(管理、利活用など)について意見交換します!

### 次回までの宿題

これまでに出た意見や案を踏まえ、防災緑地全体のイメージを考えてください。



## お問い合わせ先

主催 福島県いわき建設事務所

問合せ 担当:緑川、兵藤

連絡先:0246-35-6075

